

令和3年度第1回瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会議事録

◇日時：令和3年5月17日(月) 午後1時30分～午後2時45分

◇会場：Zoom会議（事務局及び浅井委員：市役所4階庁議室）

◇出席者：(順不同敬称略)

<審議会委員> 横井寿史 杉山仁朗 三枝麻由美 吉田恵美子 木村直幸 加藤純
浅井文彦 弓削恵理子 馬場恵実 中井康代 加藤佐紀子 萱岡愛
西尾綾香 青山一郎

<事務局> まちづくり協働課 課長 中島宗仁 主幹 杉江圭司
課長補佐兼協働第1係長 戸田律子 協働第1係主事 桜木理沙

◇欠席者：なし

■議事1 市長あいさつ

【事務局】 こんにちは。本日はご多用の中、出席を賜り、ありがとうございます。ただいまから、令和3年度第1回瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会を開催します。

私は、4月よりまちづくり協働課課長になりました中島と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日は第1回審議会となります。お聞きづらい点があるかもしれませんが、ご容赦ください。本日は委員14名、全員にご出席をいただいております。瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会条例第6条第2項に基づき、本審議会が成立していることをご報告させていただきます。

市長より挨拶を申し上げます。

【市長】 こんにちは。日ごろ、大変お世話になっております。ありがとうございます。

本日は、ご多用のところ、当審議会にご参加いただき、心よりお礼を申し上げます。平成29年度に策定をした現在のプランのビジョンは、「性別にかかわらず、個人の能力を發揮できる多様性のある社会の実現」ということで、その社会に向け、重点目標を掲げ、女性活躍、男女共同参画の推進に取り組んでおります。

この間、ジェンダー平等や多様性について、一人ひとりが、さまざまな場面で考える機会も多かったと認識しております。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会が著しく変化している時代に、柔軟で実効性のある次期プランの策定を行うにあたり、それぞれの分野で活躍の皆さまから多様なご意見をいただけることを、大変を心強く思っております。

新型コロナウイルス感染症の状況ですが、瀬戸市でも4月末あたりから、感染者数が大変増えております。連休を挟み、市内の高齢者施設ではクラスターが確認されています。昨日現在、624人という大変大きな数字になっております。ただ、数日前に比べると、確認数が減っております。地方自治体のワクチンの接種を早く行うことが新たな課題となっておりますので、精一杯進めさせていただいております。

本市の女性の活躍、男女共同参画を推進してまいりたいと考えておりますので、皆さま方のお力添えを賜りますことを心よりお願いを申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】ありがとうございます。

■議事2 諮問

【事務局】資料1に沿って諮問に移ります。本来であれば、市長から諮問書をお渡しするところですが、オンライン会議ということで、市長より諮問書を読み上げさせていただきます。

【市長】(諮問書読み上げ)

【事務局】ありがとうございました。市長は、ここで退席いたします。

以降の議事進行は、横井会長にお願ひいたします。よろしくお願ひいたします。

【会長】次第に基づき、進めてまいります。

■議事3 令和3年度瀬戸市男女共同参画推進体制について

【会長】議題3、令和3年度瀬戸市男女共同参画新体制について、事務局より報告をお願ひいたします。

【事務局】(資料2、資料3に沿って説明)

【会長】ありがとうございます。ただいまの説明について、ご質問があればお願ひいたします。ご意見等はないようですので、次に進みます。

■議事4 トライアングルプランⅢに基づく取り組みの進捗状況について

【会長】議題4、トライアングルプランⅢに基づく取り組みの推進状況について、事務局より報告をお願ひいたします。

【事務局】(資料4、資料5に沿って説明)

【会長】ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問があればお願ひいたします。質問しにくい状況かもしれませんが、よろしいでしょうか。次の議題5の説明を聞いていただいた後でも、議題4のご質問をしていただいても結構ですので、先に進みます。

■議事5 次期プランの基本的な考え方及び重点目標について

【会長】議題5、次期プランの基本的な考え方及び重点目標について、事務局より報告をお願ひいたします。

【事務局】(資料6に沿って説明)

【会長】ありがとうございました。今の説明について、ご意見、ご質問があればお願ひいたします。次期プランについて、大変重要な部分になると思いますので、委員の皆さんそれぞれにご意見をいただいたほうがよいでしょうか。名簿順にご指名させていただきますので、思いつかれたことでも結構ですので、ご意見をお願ひいたします。

【委員】ただいまの考え方と重点目標についての案ですが、以前は、「女性」だったものが「ジェンダー平等」に変わった点が、今の社会の流れに沿っており、よいと思いました。もう1点、SDGsについても盛り込まれていて、盛りだくさんだと感じました。

【委員】トライアングルプランⅣの重点目標と特に対応すべき課題は、大まかにこのような感じでよいと思います。現在、最終年度となっているトライアングルプランⅢでは、女性活躍の観点

から、育児、出産のことも多く取り上げられておりますが、新しい案では、今後、高齢化が進むということで、介護による離職を防ぐ必要性を記載する必要があるのではないかと考えています。2025年には東京圏で13万人の介護難民が発生すると言われておりますが、瀬戸市の介護難民の現状や今後、どのように推移していくのかというようなことも、長期的な目標に入れてもよいのではないかと思います。

【会長】ありがとうございました。

それは、ここの重点目標等に入れるかどうかということとは別に、そのような視点も計画の細かいところに入れていくべきだというご意見ですか。

【委員】たぶん、今後、細かい基本施策が出てくると思います。現状のトライアングルプランⅢでは、高齢者に関しては、「運動しましょう」というような支援の部分に予算を割いて実施しており、「介護予防事業の実施」ということで、「可能な限り、自立した生活を営むことができるよう支援する」ということだけしか、載っていないと思います。今後、高齢化、少子化が進むということで、働きたくても、介護により離職しなければいけない男女が増えないようにするためにも、そのような目標を入れていくとよいと思います。

【委員】重点目標のところですが、「あらゆる分野における個人の活躍」という表現は、かなりあいまいだと感じました。その前の「性別にかかわらず、個人があらゆる分野で活躍できる」という表現のほうがよいと思います。

2点目の「男女共同参画の実現に向けた基礎の確立」については、トライアルプランがⅣということで、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲが終わっているということで、そろそろ基礎ではなく、次の段階に進むべきだと思います。より抜本的な施策が導入できるようなことに、ぜひ取り組みたいと考えております。

【会長】ありがとうございました。

ご意見に対して、最後に事務局からまとめてご返答いただく形でよろしいですか。

→【事務局】最後にまとめてお答えする形で結構です。

【会長】わかりました。続いてお願いいたします。

【委員】「特に対応すべき課題」については、課題があるからどのようにするのかという具体的なプランになるのだと思いますが、この課題のところでは瀬戸市独自のものを何か出せると、より具体的な計画になると思います。現在のところ、「ライフ・ワーク・バランスがまだできていない」、「固定的性別役割分担意識が解消できていない」、「ジェンダー目標が大して進んでいない」という捉え方になると思います。もう少し突っ込んだもの、続くようなものがあれば、具体的な課題というものが出せるのではないかと思います。

「情報発信の強化と啓発」では、この課題に対してどう取り組むのかということになるかと思いますが、情報発信が弱いということが課題だと思っておられるのでしょうか。どのようなお考えで、課題とされたのかがわかるとよいと思いました。

【委員】今の時代に合った考え方と課題で、基本的には大変よくまとめられており、大変よいと思いました。

【委員】資料を読み込む時間がなかったのですが、資料を読んでよくわからなかったことを申し上げます。トライアングルプランの3つとは何でしょうか。そのようなことを付け加えていただけるとよいと思いました。

また、私どもは労働基準監督署ということですが、やはり現状では、男女で就ける仕事に差があるということは否めません。盛んに「平等」という話は出ていますが、現実にはそのようになっていないと感じます。それを解消するために、このようなプランが設けられているということで、大変よい考えだと思います。

【委員】基本的な考えのSDGsで、「17の目標を踏まえ、持続可能な社会づくりをめざす」とありますが、これが、どのように課題に関わってくるのかを知りたいと思いました。

また、第3次と第4次の違いについて、説明にあったように、「女性だから社会、男性だから家庭に入り込んでいこう」ということではなく、全体のワーク・ライフ・バランスを進めていこうというようになっていくことが、大変よいと思いました。

もう1点は、先ほどご意見がありましたように、重点目標の2個目の「基礎の確立」で、「まだ基礎なのか」と感じました。まだ基礎であるということでしょうか。よろしくお願いいたします。

【委員】初めて見る単語が多いと感じました。先ほどご意見がありましたように、「トライアングル」という言葉の理由がわかると、このようなプランが広まっていくと思います。

また、第4次プランの「特に対応すべき課題」は、世の中の一般的な課題ではあるとは思いますが、特に第4次のプランとして、これを課題としているのか、疑問に思いました。「ジェンダー平等に向けた意識改革」は、大変大きな理想だと思いますが、それを「情報発信の強化と啓発」でどのように進めていくのか、今後、示していくとよいと思いました。

【委員】全体的には、これでよろしいかと思えます。

特に、対応すべき課題にある「固定的性別役割分担意識の解消」と「ジェンダー平等に向けて」のところ、第3次の結果を見ても、「性別役割分担をよしとするかどうか」についての項目等では、数値は下がっています。つまり肯定的な人が増えており、これを否定しようという意見が減っているというようなことが見えます。社会全体の中で、ジェンダー問題が課題となって、話題として挙がっていますが、それが、生活そのもの、あるいは社会のしくみそのものに反映していくには、バックラッシュ的な要素として、数年間あまり取り上げられてこなかったということから、この部分の意識啓発が非常に大事なことだと思います。このことを、特に男性にわかってもらうためにどのようなことに力を入れるのかという意味でも、この2点が課題として挙がっていることは、非常に重要なところを捉えていると思いました。

【委員】2点申し上げます。1点目です。先にご意見がありましたように、基本的な考え方でSDGsを取り上げていることは、最近のはやりで、よいと思うのですが、SDGsを取り上げると範囲が広くなり過ぎてしまい、せっかく立てた基本的な考え方が少しぼやけるのではないかと思います。もし挙げるのであれば、SDGsの17の目標の中でも、「ジェンダー意識」や、それによって労働等がかかわってくるのであれば労働の分野等、ポイントを絞って挙げるべきではないかと感じました。

基本的な考え方の説明で、最後に事務局に補足していただきましたが、「市民や企業それぞれが行っていく」という一文を入れたほうがよいのではないかと感じました。

2点目です。計画の立て方に関することかもしれませんが、一番下の「特に対応すべき課題」がいくつか挙げられていますが、通常の課題のたて方は、ビジョンがあって、それと現状の

ギャップが課題になるのだと思います。ビジョンが変わらないのに、対応すべき課題が変わってきているということは、実はこのビジョンがもう少し具体化された姿があるべきではないかと感じます。もしそのようなものがあるのであれば、それを明確にすると、施策等がぶれないと思います。ご検討いただきたいと思います。

【委員】資料を拝見すると、大変聞こえのよいプランだと感じますし、内容が間違っていることも全くないのですが、ふわっとしているという印象を受けました。SDGsについても「安全なトイレを世界中に」という項目もありましたが、本当にそれを瀬戸市が重視しているのかと疑問を感じました。いろいろな項目があり、全てよい目標なのですが、瀬戸市と関係あるのかという疑問があります。ビジョンというものは、どうしても抽象的であったり、ふわっとしがちで、そのほうが聞こえがよくなるのかもしれませんが、本当に問題を解決したいと思えば、浅く広く手を広げるのではなく、「瀬戸市はこの問題を解決したい」というものをはっきりと伝えることが大切だと思います。聞こえのよいことを言っているけれども、本当は何が進んでいるのかわからないという印象を受ける方もいると思います。現実的なゴールを見据えて、目標を立てていくほうが、市民に意識が伝わりやすいかもしれないと思います。そのような意味では、「対応すべき課題」では、前は「環境整備」で終わってしまっていますが、今回は、もう少し具体的な課題になっているという印象を受けましたので、大変よいと思いました。

【委員】今回はコロナ禍ということで見えてきたことがたくさんあると思います。できれば、それを活かして、組み込んでいただきたいということが第一のお願いです。例えば、在宅勤務等は今後、平常化していくもので、それを取り入れた組織づくりが企業でも進んでいます。そのように、皆さん、いろいろなことを体験して見えてきていることがあると思います。それを組み込んでいく、せっかくのチャンスだと思います。ピンチをチャンスに結び付けていただきたいと思います。

もう1点、前回の議事録を読ませていただきましたが、よいご意見が出ていたと思いました。特に、副市長が最後に、地域社会全体で取り組んでいくことが必要と断じておられるように、やはり地域社会の中に男女平等、この会の目的を入れ込んでいくことが必要だと思います。現在、地域で各団体がいろいろな催しを行っていますが、少子高齢化も含めて、なかなか行事等がやりにくくなってきています。女性と子どもの参加を求めると、その会は盛り上がるということは常ですが、特に女性と子どもの参加がしにくくなっています。今の小中学生は大変忙しく、スケジュールが詰まっているようです。私自身もいろいろな団体に入り、子どもの参加をいただいています。絵や書の団体では、先生方も忙しく、今までのようにスムーズに進めにくくなってきています。このようなことを、いろいろな団体が別々に組み込んでいくのではなく、女性や子どもの参画ができ、楽しい地域活動ができるようになればよいと思います。特に、防災関係では、ぜひ団体の調整をしながら女性に参画していただけるとよいと思います。地域防災コーディネーター等でも触れられているように、そのようなことが有効かつスムーズにいくように調整していただくことも、具体的な案としては必要だと思います。重点目標に「安心して暮らせる社会づくり」とありますが、まさにその通りで、そのためには、現在行われていることが、よりスムーズに進むように計画をしていただけたらよいと願っています。

【会 長】 皆さん、ありがとうございました。

私からもご意見を申し上げます。皆さんのご意見の通りだと感じました。確かに、SDGsは大変大切な観点ですが、幅広過ぎると思います。「基本的な考え方」の最後の部分、「一人ひとりが」の部分は、より強く前面に押し出してもよいと思いました。

また、重点目標ですが、このコロナ禍がいつまで続くのかということも関係しますが、現在女性の就労環境が過酷になっていると報道されていますし、皆さんが苦しんでいる中でDV等、弱者に向かっていく傾向があるということを考えると、重点目標の中には「DVの根絶」を入れてもよいのではないかと思います。

対応すべき課題では、「固定的性別役割分担意識の解消」はとても重要だと思いますので、ぜひ前面に出していくべきだと思いますが、この「固定的性別役割分担意識」という言葉を一般の人が聞いたときに、その意味を理解できるでしょうか。もう少しわかりやすい表現をしたほうがよいかもしれません。

事務局、副市長よりご意見があればお願いいたします。

【副市長】 いろいろなご意見をありがとうございました。

まず、このプランは、どのような地域社会を創っていくか、あるべき地域社会は何かということが、そもそもの発端です。別に国の施策や県の状況や社会の状況がどうなのかということではなく、この地域がどのように変わっていくのかが、一番の狙いだっただと思います。そのような中、これまでトライアルプランⅢまで進めてきた中で、あるべき地域社会の姿とは何かということがあります。それと現状の状態とのかい離を、もう少し明確に整理すべきだと思います。そうしないと、課題が出てこないと思います。課題が出てこない、それを解決していくための施策に結び付きません。「目指すべき社会のあり方」、「現状とのかい離」、「導き出される課題」というものを、明確にするべきだと思います。アンケート調査も実施したと思いますが、状況を把握することが必要だと思います。その上で施策をたてていくことになると考えております。

【会 長】 ありがとうございました。事務局、いかがですか。ご意見をうかがって、もう少し具体的な表現にしたほうがよいのではないかと思います。また、まだ基礎ができていないということで、基礎を確立して行くということ表現したほうがよいのでしょうか。

→【事務局】 多くの貴重なご意見をありがとうございました。

1点目のSDGsは世界的なものであり、広過ぎるということで、より具体的なことを示したほうがよいというご意見をいただきましたので、課題や目標としては、より現実的なところをめざすということで、具体的なものを表していきたいと思います。

2点の基礎の確立についてですが、いつまでが基礎なのかというご意見も、確かにその通りだと感じます。ジェンダー平等という言葉も使っている以上、もう基礎ではなく、次の段階に行くためにはどのようにするべきかも盛り込んでいきたいと考えています。

3点目としては言葉がわかりにくいというご意見がありましたが、「トライアングルプラン」という言葉は、もともとは「地域」「家庭」「職場」の3点が三角形になり、それぞれの立場で啓発するとともに進めていくという意味も込めています。今まではトライアングルプランということで進めてきましたが、地域全体で取り組むものであり、一人ひとりが自分で少しでも変えられること、少しでも取り組めることにつながるというこ

とを、次期プランでは伝えていきたいと考えております。

【会 長】ということであれば、プラン案は変更したものをご提案いただけるということですか。

→【事務局】はい。今回は、あくまでも、次期プランの基本的な基礎の基礎と申しますか、骨組みの一番の芯になる部分について触れましたが、次の7月頃の審議会では、現行プランのようなたたき台をご提示したいと考えております。そこで、皆さまからのご意見をいただき、進めていきたいと思っております。今回は、方向性とビジョン、目標の部分をご了承いただけるかどうかということで、お示しをしています。

【会 長】では、本日、これらが確定するわけではないということですか。

→【事務局】ほぼ、この方向性とこの内容でよいと確定をさせていただけると、それを次のたたき台をつくる際のベースにしていけると思っておりますので、本日、確定をしていただきたいと考えております。

【会 長】SDGsに関しては、この場で確定するためには、どの表現を残し、どの表現を残さないというようなことはいかがですか。大きな方向性だけをここで確定するというのでしょうか。

→【事務局】はい。

【会 長】細かい部分については、今後、修正をしていくということですか。

→【事務局】はい。そのように考えております。

【会 長】では、委員の皆さん、大きな方向性として、いかがでしょうか。ご意見があればお願いいたします。

ご意見がありませんので、基本的にはこの方向性で進むということで、引き続きよろしくお願いたします。

■議事6 第2次瀬戸市女性活躍推進・第4次瀬戸市男女共同参画プラン策定スケジュールについて

【会 長】議題6、第2次瀬戸市女性活躍推進・第4次瀬戸市男女共同参画プラン策定スケジュールについて、事務局より報告をお願いいたします。

【事務局】(資料7に沿って説明)

【会 長】ありがとうございました。今の説明について、ご意見、ご質問があればお願いいたします。多少時間がありますので、前半の部分に関してもご意見がありましたら、お願いいたします。

【委 員】先回も申し上げたことですが、基本的なことがらでするので、改めて再度申し上げます。女性の就労に関してですが、結婚、育児、介護のときに、女性が仕事を辞めやすい傾向にありますが、女性と男性は平等で、法律でもそのようになっており、我々の審議会も、そのような方向に向かっていこうとしています。女性はいろいろな都合で仕事を辞めやすいということではなく、女性も家庭の事情では仕事を辞めないという認識をもち、辞めるときは定年時で、そのときにはお祝いをするということだと思っております。「寿退社」というような言葉は、現代には合わないということだと思っております。女性も、いろいろなタイミングで休暇を取ることはあっても、男性と同じように一生勤めるということ。固定観念を覆すようなアクションや言葉があればよいと思っております。古い固定観念などを退治するような心構え、アピールが、この審議会にも必要だと思っております。

【会 長】ありがとうございました。逆に、保育の現場等では、給料が安いので男性が寿退社するという話も聞きます。旧態依然とした男女のあり方ではなく、男性女性を含めて、生き方を当た

り前に選べるようにならなければいけないと感じています。

他にご意見等はございませんか。

【委員】今のご意見に対して、申し上げます。私自身、大学卒業後からずっと同じ会社で会社員をしており、現在、40歳代前半で、ちょうど管理職になるのかどうかというキャリアの壁に当たっているところです。結婚や出産で、女性が会社を辞めるのではないか、という話の背景には、男性と同じようにキャリアが積めないという問題があると思います。難しいと思うことは、それを市町村が目標とし掲げて、解決できるものなのかどうかで、疑問に感じます。先の委員のご意見には大きく共感する部分があり、女性が退職することをよしとする風潮は変えていかなければいけないと思います。この課題で、市町村でできる解決としては、女性もお金を稼ぐということを、より意欲的に、よりどん欲にしていくことが大事だと思います。お金を稼がないと、どのようなデメリットがあるのかを、市町村が押していくことであればできると思います。例えば、DV等も、肉体的な弱さだけでなく、経済的な弱さもあり抵抗できないという場合もあると思います。自分で生計をたて、自立できていないと、そのようなことにもつながるといようなことであれば、市町村も押していけるかと思っています。直接的にはつながらなくても、間接的に女性が働き続けることの利点を社会として押していくことはできると思います。

私どもの会社は商社系のIT企業ですので、表向きにはいろいろな施策を出していますが、内情としては、女性はなかなかキャリアアップができません。

【会長】ありがとうございます。

他にご意見等はございませんか。

【委員】「女性も一生勤める」という意識改革もあると思いますが、環境面がまだまだ改善されていないので女性が活躍できないということが通念だと思います。もし環境面がきちんと整備されていて、なおかつ女性の退職が続くということであれば、そのようなメッセージは重要になると思いますが、現状では、まだまだ女性が仕事か子育てのどちらかを選ばなければならない状況で、二択を迫られているということだと、全く変わりません。その環境をぜひ、企業側から変えていただきたいと思います。環境が同じであれば、女性も仕事を続けるということにつながると思います。その点をぜひ、お願いしたいと思います。

今までの男性中心の日本の文化の名残りがいろいろなところがあり、無意識のバイアスという形で、男性社員には重要な仕事を任せ、女性社員には、辞める可能性もあるので、重要な仕事は任せないという傾向にあると思います。重要な仕事をしないと、仕事のおもしろさもわからず、続ける意欲につながらないということもあり、全てが悪循環となっています。女性の意識だけが問題なのではなく、日本の場合にはまだ環境面が追いついていないということを強調したいと思います。

【会長】ありがとうございます。男性が育児休暇を取得するというのを考えてもみたことがないという社長も、たくさんおられます。また、男性が当たり前前に家庭に帰ってこなければ、女性が社会で活躍することは難しいと思います。「男性でも育児休暇が取れる」ということを広く伝えていけば、男性の取得率は少しずつ上がってくるように思います。

他にご意見等はございませんか。

【委員】感想を申し上げます。ご指摘にあったように、整備面が追いついていないということはある

と思います。

現在、一番注目すべきことは、やはり若い世代に対する発信だと思います。整備していくということは淡々と進めていくしかありません。すでに大人になってしまった方の意識を変えることは、結構難しい部分もあると思います。「こうしたい」という思いがあればあるほど、世の中が変わっていく原動力になり得ると思います。上のほうの人たちだけが「こうすべきだ」と言っている、それほど意識が高くない大勢の人たちが変わらなければ、底から変われないと思います。そのような意味では、まず男女、ジェンダーという意識が固まっていない若い子どもたちに、どのようなメッセージを届けるのがとても大事だと思います。大人に対する啓発も必要だと思いますが、効率を考えると、若くて、何も決まっていないう子どもたちに「あなたの人生をどのようにしていくのか」と伝えていくことが一番よいと、個人的には思っています。

そのような場合、伝え方というものが非常に大事だと思います。「男も家事をこなさい」「女も働きなさい」と言われると、「仕事をしたくない」という女性もいるでしょうし、「家事はやりたくない」という男性もいると思います。前回、「家事はタスクでなくスキルである」という見方もできると申しましたが、男性にとってもメリットがあることを伝えたり、女性が働くということは、自分で選択肢を増やせるということだと伝えるとよいと思います。「だれかのせいになくすむ人生」ということであり、「経済力がないと選べない」ということです。働くということは、あなたにとってメリットがあり、自分自身で自分の人生をつくっていけるのだというメッセージです。「働かなければいけない」「お金がなくなってしまう」と働くことがネガティブなイメージで伝わると、専業主婦がよいと考えてしまう人もいます。若い世代に伝えていくときに、ネガティブな言葉を使うのではなく、「自分の人生をよりよくしていくためにどのようにしたらよいのか」という視点を持ち、ビジョンをもちながら進めていただきたいと思います。

【委員】 この半年ほど目立ってきたものに、ジェンダーに関する子ども向けの絵本があります。対等であるということとはどのようなことなのかを考えさせる絵本等、非常にたくさんのが、小学校低学年から中学生向けに出版され、書店に並んでいます。それらをたくさん子どもたちに読んでほしいと思います。そういったものを小学校の図書館やクラスごとの学級文庫等に順次入れていただくことで、女の子には「自己実現をどこまでも行ってもよい」というメッセージが伝えられたり、男の子には「互いの同意がなければ関係性は深められない」ということをしっかりと理解してもらうことができると思います。大人が読んでも納得できるような絵本もたくさんありますので、そのようなものに予算を使っていただきたいと思います。もう1点、DVや女性の失業等がコロナ禍で非常に大きな課題となりました。自殺率も同様です。新型コロナウイルス感染症によって起きた問題を、この男女共同参画の取組の中に特別なトピックスとして入れることが適切かどうかは、大きな課題だと思います。5年間かけて取り組む課題ですので、そのようなものを生み出すに至った、女性の就業的な弱さの解消というものを、よりベーシックに取り上げて、社会全体、地域全体が見守りながら変わっていくという書き方のほうがよいのではないかと思います。もちろん、よりブレークダウンしたプランを考えていくときには、具体的な現状の課題や問題点の解消ということで、数値目標等が挙がってくると思います。

【会 長】ありがとうございました。他にご意見等はございませんか。

以前にもお話ししましたが、子ども向けということでは、名古屋市では小学2年生全員に、はがきサイズの男女共同参画のカード教材を配っています。それを授業で使うのかどうかは、各先生にゆだねられています。「男だから」「女だから」というようなことを意識して職業選択をする必要はないというような内容が平易に書かれており、おもしろい教材ですので、瀬戸市でも入手する機会があれば、皆さんにもご覧いただけ、参考になると思います。

他にご意見等はございませんか。では、先に進みます。

では、最後に事務局より連絡事項をお願いいたします。

→【事務局】本日も、大変貴重なご意見ありがとうございました。ご意見を十分に受け、新しいプランをつくってまいりたいと思います。

スケジュールの確認をさせていただきます。次回の審議会は、令和3年7月頃の開催を予定しております。計画の立案ということで、たたき台を作成し、ご審議をお願いしたいと考えております。よろしくをお願いいたします。

次回の審議会からは、送付させていただく資料も、素案となり、量が増えてまいります。ご協力をよろしくをお願いいたします。

【会 長】ありがとうございました。

以上で、令和3年度第1回瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。